資料3
科学技術・学術審議会　学術分科会
人文学・社会科学特別委員会（第12回）
令和４年6月28日

# 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（現状と課題）

盛山和夫

（人文学・社会科学特別委員会）

2022年6月28日

# 1　課題設定による先導的人文学･社会科学研究推進事業（学術知共創プログラム）日本学術振興会

## これまで

科学技術・学術審議会学術分科会の報告（平成24）を受けて、平成25年度より事業開始

- 「領域開拓」「実社会対応」「グローバル展開」の３プログラムを、年度順に実施。
- 毎年度、３～６個の課題を設定。令和２年度までで、研究テーマ設定型を９件、研究テーマ公募型を76件採択。現時点で、研究遂行中のもの12件。
- 革新的で創造的な研究実績。シンポジウムなどで積極的に発信。

## 学術知共創プログラム

令和３年度から、本特別委員会「審議のまとめ」を踏まえ、事業を部分改編し、人文学・社会科学のより挑戦的で根底的な発展をめざした研究支援スキームを設計。

〇**趣旨**：未来社会が直面するであろう諸問題に係る**有意義な応答**を社会に提示することを目指す研究テーマを掲げ、**多様な**分野の研究者や社会の多様なステークホルダーが参加して、人文学・社会科学に**固有の本質的・根源的な問い**を追求する研究を推進することで、その解決に資する研究成果の創出を目指す。

## 事業体制と特徴

- ３つの「**大きなテーマ**」を継承し、３課題を設定。
- 事業としては、「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」とは「**異なる事業**」。
- 事業委員会において制度設計と運営。独立した「部会」において、審査・評価。
- 支援単価は、直接経費については,1,500万円弱/年度。期間は、最長6年。

# 「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」
# ～概要～

## 1. 背　景

「リスク社会の克服と知的社会の成熟に向けた人文学及び社会科学の振興について（報告）」
（科学技術・学術審議会　学術分科会　（H24.7.25））

人文学・社会科学の振興を図る上での3つの視点として、

1. **諸学の密接な連携と総合性**
2. **学術への要請と社会的貢献**
3. **グローバル化と国際学術空間**

が、重要である。

## 2. 事業概要

平成25年度～　:「領域開拓プログラム」、「実社会対応プログラム」、「グローバル展開プログラム」

- 上記**「3つの視点」を踏まえた先導的な共同研究を支援**する枠組み。

再編、一本化

令和3年度～　:「学術知共創プログラム」

- **未来社会が直面するであろう諸問題（大きなテーマ※）の下で、人文学・社会科学に固有の本質的・　根源的な問いを追求する研究を推進**することで、その解決に資する研究成果の創出を目指す。

**大きなテーマ**

- 将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方
- 分断社会の超克
- 新たな人類社会を形成する価値の創造

※「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト（審議のまとめ）」（R3.1.22）で提唱されたもの。

# 「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」の仕組み

＜事業委員会と部会の体制＞

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」事業委員会
◇制度設計　◇課題の設定　◇審査・評価方針の決定

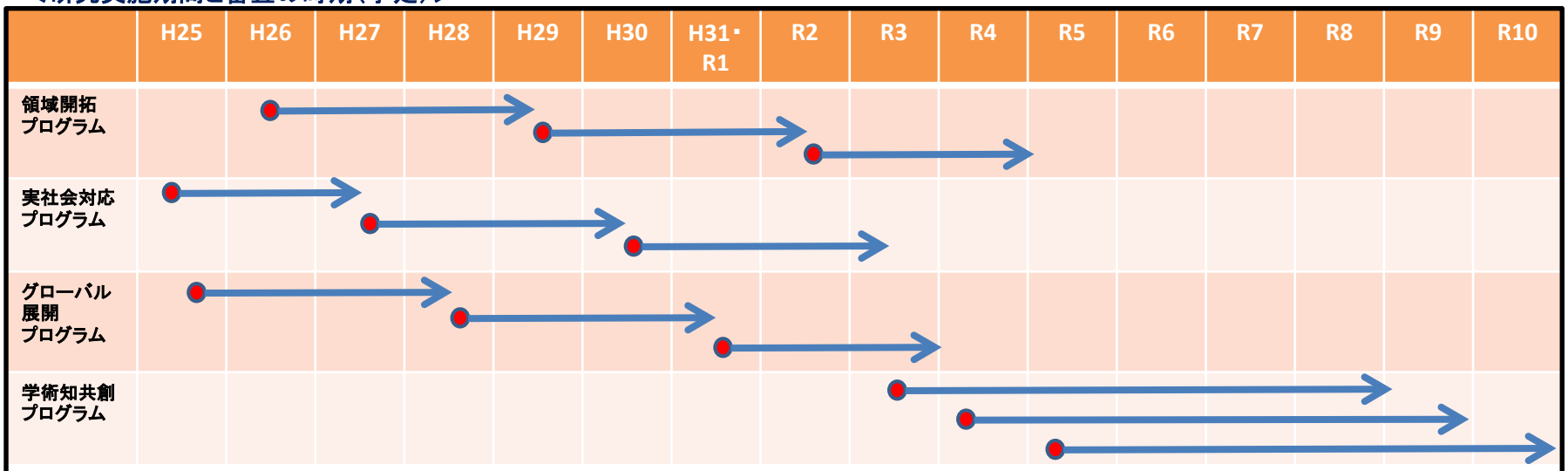
部会

領域開拓部会　実社会対応部会　グローバル展開部会　学術知共創部会

◇研究テーマの審査・評価

※部会長は事業委員会委員が兼務

＜研究実施期間と審査の時期（予定）＞




※研究実施期間：　領域開拓、実社会対応、グローバル展開は、3年間　　学術知共創は、6年間

※青色のラインは研究実施期間、　赤色の丸は、審査の実施時期

# 令和4年度学術知共創プログラムについて

＜令和4年度公募に係るスケジュール＞

〇令和3年12月下旬～　公募開始

〇令和4年2月下旬　公募締切

〇令和4年2月下旬～令和4年5月中旬　審査

〇令和4年5月下旬～　採択通知

〇令和4年6月上旬　研究開始

※公募要領等は本事業のホームページに掲載いたします。
https://www.jsps.go.jp/kadai/index.html

# 2　課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（学術知共創プログラム）の実施状況

## スケジュール

令和3年　4月27日　「学術知共創プログラム」公募要領等をＨＰに掲載
令和3年　6月28日　学術知共創プログラムに係るヒアリング審査日程をＨＰに掲載
令和3年10月　1日　採択研究テーマをＨＰに掲載

## 応募・採択状況

| 課題名 | 令和３年度 | | 令和４年度 | |
|---|---|---|---|---|
| | 応募 | 採択 | 応募 | 採択 |
| Ａ：将来の人口：将来動態を見据えた社会・人間の在り方 | １２ | 0 | 7 | 0 |
| Ｂ：分断社会の超克 | １０ | 1 | １０ | 0 |
| Ｃ：新たな人類社会を形成する価値の創造 | 9 | 1 | １２ | 2 |
| 合計 | ３１ | 2 | ２９ | 2 |

## 令和3年度事業委員会での主な検討事項

・「審査に当たっての主な要素と観点」について検討を行い、公募要領等を修正した。

旧）学術的な水準の高さのみならず、研究テーマにとって必要な自然科学を含む多様な分野の研究者や社会の多様なステークホルダー（産業界、NGO、マスコミ、行政、公益法人等）の知見も取り入れた

新）学術的な水準の高さのみならず、人文学・社会科学から自然科学などの多様な分野の研究者や社会の多様なステークホルダーが参加して

令和4年度公募要領より

## プログラムの趣旨

**未来社会が直面するであろう諸問題（「大きなテーマ」を継承した３課題）に係る有意義な応答を社会に提示することを目指す研究テーマを掲げ、人文学・社会科学から自然科学などの多様な分野の研究者や社会の多様なステークホルダー（産業界、NGO、マスコミ、行政、公益法人等）が参加して、人文学・社会科学に固有の本質的・根源的な問いを追究する研究を推進することで、その解決に資する研究成果の創出を目指します。**

## 審査に当たっての主な要素と観点

１）研究テーマの性格

① 応募内容提案書の内容がプログラムの趣旨及び設定された課題の内容に合致したものであるか。

② 課題に関する有意義な応答を社会に提示することを目指したものであるか。

③ 人文学・社会科学から自然科学などの多様な分野の研究者や社会の多様なステークホルダーが参加して、人文学・社会科学に固有の本質的・根源的な問いを追究するものであるか。

④ 人文学・社会科学を軸として新たな学術知を共創することが期待できるものであるか。

## 審査に当たっての主な要素と観点

**令和4年度公募要領より**

２）研究内容・方法

① 研究内容はパラダイムの革新や創造を目指して取り組んでいるものであるか。

② 研究内容は現状の諸課題やそれに対する取組を踏まえながら、解決方策が十分には探究されていない、あるいは問題が顕在化していない 30 年～50 年先の国際社会や我が国社会を見据えた長期的な視座が必要なもので、かつ人文学・社会科学が中心となって取り組むことが適当と考えられるものであるか。

③ 研究方法は研究内容を達成するために適切なものであるか。

④ 研究計画は人文学・社会科学と自然科学の双方に精通する人材の育成に寄与することが期待できるものであるか。

⑤ 研究成果を適切に公開・普及させる計画は具体的か。

⑥ 研究成果及びその普及によって、より広い学術や社会の発展への寄与が期待できるか。

⑦ 学術的に高い水準が確保されているか。

令和4年度公募要領より

## 審査に当たっての主な要素と観点（続き）

３）研究実施体制

① 研究代表者が研究テーマを推進する上で十分な研究能力及び経験を有するとともに、研究実施期間中、継続して研究活動全体に責任を持つことができるか。

② 研究プロジェクトチームは、研究テーマを総合的かつ効果的に推進できるまとまりのとれた構成となっているか。

③ 専門分野、性別、年齢、国籍、所属機関などに関して多様性をもっているとともに、世代間の協働や国際的な取組にも配慮して構築されているか。

④ 研究期間終了後において、研究者間のネットワークの広がりが期待できるものか。

⑤ 国際ネットワークのハブとなり、国際的にリードすることが強く期待できる体制になっているか。

４）その他

① 研究遂行のための予算規模が適切であるか。

② 研究費の管理を担う、研究代表者の所属する研究機関の事務局の体制が整っているか。

# 学術知共創プログラム　採択課題

（第１期　R3～R8）　２件

| 研究テーマ名 | 研究代表者氏名 | 所属機関・所属部局・職名<br>※採択時の情報 |
|---|---|---|
| 移住・移民の常態化を前提とする持続的多文化共生社会の構築 | 坂井　一成 | 神戸大学・国際文化学研究科・教授 |

研究目的の概要

世界中で移民が常態化している現状を踏まえ、この既成事実化がさらに加速し、ドイツがそうしたように、日本も「移民国家」の自己規定に転換せざるを得なくなる将来を視野に入れなくてはならない。そこでたとえば、移民との摩擦の回避と社会の分断を克服するための社会ネットワークの構築、社会保障制度や教育政策の改善の検討が求められる。その際、人文学・社会科学における学際的協働に加えて、ITやデータサイエンスなどの自然科学分野の研究者との協働によって新たな概念やアプローチ法を構築すること、さらに教育、メディア、行政、NGOなど様々な社会活動領域のステイクホルダーとの協働によって、現場の実態に即した課題と解決方法を解明することが不可欠となる。また、社会の構成員として共生が常態化している以上、移民自身も社会の客体ではなく、むしろ主体として政策や制度の設計に関わることが不可欠となる。このように、人の国際移動の常態化をめぐり現実社会の変化のなかで生じている社会の歪みを直視し、対応が遅れることで社会・経済を蝕んでくる根源的課題を解明し、必要な政策対応を解明することが本プロジェクトの目的であり、この過程で人文学・社会科学の研究者を中心に、自然科学との文理融合研究と、移住者自身を含めた多様なステイクホルダーとの連携のなかで、30年後の日本と世界の社会・経済の発展に資する学術知の創出を目指す。

| | | |
|---|---|---|
| プラスチック汚染の実態解明を通じた共通価値創造：循環経済へのネットワーク創出 | 原田　禎夫 | 大阪商業大学・公共学部・准教授 |

研究目的の概要

本研究では、地球規模で深刻化するプラスチック汚染に対して、自然科学の知見も生かしながら、人文学・社会科学の観点からプラスチック汚染にアプローチする。ほとんど明らかにされていない農業地域からのプラスチックごみの流出の実態を解明することを軸に、研究者のみならず市民参加型の調査手法を確立することで、各ステークホルダー間の情報の断絶を超克し、問題解決に向けた国際的なネットワークを構築し、市民の意識や行動変容をどのように促すことができるのか明らかにする。

# 学術知共創プログラム　採択課題

（第２期　R4～R9）　２件

| 研究テーマ名 | 研究代表者氏名 | 所属機関・所属部局・職名<br>※採択時の情報 |
|---|---|---|
| よりよいスマートWEをめざして：東アジア人文社会知から価値多層社会へ | 出口　康夫 | 京都大学・文学研究科・教授 |

研究目的の概要

現在国内外で生活空間のスマート化・DX化が急速に推し進められ、社会に正負様々な影響を及ぼし始めている。本研究は、リアルとバーチャルなWE（人間関係・絆・共同体）の貧困化を防ぎ、いかにしてリアルなWEを豊穣化しバーチャルなWEを健全化すべきかというWE問題に焦点を当て、人間・社会観の人文学的深掘りと文理・産官学連携による実証研究を密接に連関させることで、WEを再活性化するスマート化・DX化の処方箋を描く。

WE問題の一因は、人間を「できる存在」とし、その本質・尊厳を自律性や自己決定性に置き、その最大化を目指すヘーゲル的社会観に代表される西洋近代の価値観にあると本課題は見る。このような考えでは、コミュニティの重要性が強調される場合でも、自足的・自立的に存在する「WEなしに一人で生きていける個人」を利益の中心に据え続ける私中心的WEが想定される。このような価値観は20世紀を通じてグローバル・デファクトスダンダード化し世界人権宣言やSDGs等に見られるように国際的な公式見解とされている。このような自足的個人の神話は、スマート化の謳い文句によってさらに増幅されつつあるが、この神話の増悪化はとくに、(1)スマートアトミズムと(2)肥大主人化という二つの現象において集約的に看取できる。

このような流れに抗して、本プロジェクトでは、東アジアなど非西洋の思想伝統に注目し、そこから「できなさ」を基軸とする人間観や脱私中心的WE観、さらには非自足的な者同士の相互委譲のネットワークとしての社会観などのオルタナティブな人間・社会観を析出することで、スマート化によって増悪した西洋的人間・社会観を非自明化・相対化・問題化すると共に、そのオルタナ価値観に基づいたWE問題の解決策を提案する。具体的には、(1) 合意し行動するWE（WEアクター）をリアルとバーチャルを貫いて再確保することを目指し、「e-ひと」をファシリテータとする合意形成支援ツールの開発とその実証実験に取り組む。(2) 流動的で開かれたWE（モバイルWE）のリアル世界での再活性化を志向し、「e-ひと」をメディエータとする人的交流支援ツールの開発とその効果実証を行う。(3)これらの実証実験を通じて、「e-ひと」と人間との「主人-奴隷」モデルとは一線を画すフェローシップ（対等的仲間性）に基づいた新たなモデルを提案する。

# 学術知共創プログラム　採択課題

（第２期　R4～R9）　２件

| 研究テーマ名 | 研究代表者氏名 | 所属機関・所属部局・職名<br>※採択時の情報 |
|---|---|---|
| 人間・社会・自然の来歴と未来：「人新世」における人間性の根本を問う | 中村　靖子 | 名古屋大学・人文学研究科・教授 |

研究目的の概要

近代以降の人類の活動は環境に深刻な変化を与え、「人新世」という新たな地質年代の名称が提唱されている。同時に国家間の地政学的対立、民主主義と権威主義の葛藤、人種や性多様性に関する人権問題、巨大企業による富の独占と経済格差などの社会現象が生じている。この現状を打破するには、18世紀以降の、同一性を持ち自由意志に基づいて行動する近代的個人という人間像を根本的に問い直し、これに代わる新たな人間・社会・自然のあり方を探求しなくてはならない。そのために、豊穣な人文知を経験諸科学と連携させ、人文学が先導して課題解決に向かうべきである。

本研究は、ブルデューのハビトゥス論と、ラトゥールのアクターネットワーク理論を理論的基盤とする。ハビトゥスとは、社会集団に共有され受け継がれる思考や行動の無意識的な習慣である。個人や国家などの振舞いも、ハビトゥスの束として捉えることができる。アクターネットワーク理論は、動物やモノや概念などの非人間を、人間と同様に、作用を及すアクターとして捉え、その機能を概念化し分析する。この理論を用いることにより、人類の歴史を、人類が獲得した言語、道具、技術、動物をも含むコスモロジーとして捉え直すことが可能となる。しかし、これらの理論は本来独立に提唱されており、またアクターネットワーク理論は抽象的で一般化が困難である。

以上を踏まえ、本研究はハビトゥスという観点から人間の内部構造を考察し、そうした内的モデルをもつ人間や動物、モノ、概念の巨大なネットワークを〈他者や自然との柔らかな均衡〉として描出する。そのためにこれらの理論の精緻化を図ると共に、アクターネットワークの振舞いを数理科学的モデルにより表現し、作動メカニズムの記述と、コンピュータ・シミュレーションによる社会の諸事象の可視化や予測を試みる。さらに「自然と人間の相互関係史」、「言語獲得と主体化のプロセス」、「セクシュアリティの多様性」、「生政治とアート」という重要なテーマについて、上記の概念的枠組みと方法論に立脚しつつ、それぞれの問題に関する仮説群を設定し、人文社会科学的及び自然科学的な視点と方法の協働により、それらを検証する。こうした試みは人文学の価値を再提示すると共に、学際科学のモデルとなりうる。これにより統合的な人間・社会・自然の姿の理解を目指し、新たな人間・社会・自然のあり方を提示する。

## 今後の検討課題

・公募研究テーマ数の伸び悩み
応募申請の拡大、充実

・研究者コミュニティでの認知度
本事業の認知度向上

・本事業の趣旨が必ずしもよく理解されていない応募があり、趣旨の周知をさらに進める必要がある

# 各プログラムの応募数及び研究テーマの実績

| プログラム名 | 応募数 | 研究テーマ<br>設定型研究テーマ採択数 | 研究テーマ<br>公募型研究テーマ採択数 |
|---|---|---|---|
| H25年度<br>**実社会対応プログラム** | ５８ | 2 | １１ |
| H25年度<br>**グローバル展開プログラム** | ２７ | 2 | 3 |
| H26年度<br>**領域開拓プログラム** | ６３ | 2 | １０ |
| H27年度<br>**実社会対応プログラム** | ５７ | 2 | 9 |
| H28年度<br>**グローバル展開プログラム** | ３８ | 1 | 6 |
| H29年度<br>**領域開拓プログラム** | ４４ | – | １２ |
| H30年度<br>**実社会対応プログラム** | ６７ | – | 8 |
| R1年度<br>**グローバル展開プログラム** | ４９ | – | 6 |
| R2年度<br>**領域開拓プログラム** | ７５ | – | １１ |
| R2年度<br>**学術知共創プログラム** | ３１ | | 2 |
| R3年度<br>**学術知共創プログラム** | ２９ | | 2 |

# 各プログラムの研究テーマ一覧①

## Ⅰ　領域開拓プログラム　（第１期　H26～29）　12件

### 課題設定型研究テーマ（2件）

| 課題 | 研究テーマ名 | 研究代表者氏名 | 所属機関・所属部局・職名<br>※採択時の情報 | 研究期間 | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|
| 行動・認知・神経科学の方法を用いた、人文学・社会科学の新たな展開 | 「社会価値」に関する規範的・倫理的判断のメカニズムとその認知・神経科学的基盤の解明 | 亀田　達也 | 北海道大学・大学院文学研究科・教授 | H26.10～H29.9 | A |
| メディアの発達によるソーシャル・キャピタルの変質 | リスク社会におけるメディアの発達と公共性の構造転換～ネットワーク・モデルの比較行動学に基づく理論・実証・シミュレーション分析 | 遠藤　薫 | 学習院大学・法学部・教授 | H26.10～H30.3 | B |

### 公募型研究テーマ（10件）

| 課題 | 研究テーマ名 | 研究代表者氏名 | 所属機関・所属部局・職名<br>※採択時の情報 | 研究期間 | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|
| 規範理論と経験分析の対話 | 規範理論としての法語用論の開拓―ヘイト・スピーチの無効化をめぐって― | 尾崎　一郎 | 北海道大学・大学院法学研究科・教授 | H26.10～H30.3 | A |
| | 地域に資する再生可能エネルギー事業開発をめぐる持続性学の構築 | 西城戸　誠 | 法政大学・人間環境学部・教授 | H26.10～H30.3 | A |
| 情報メディア発展のもとでの新しい地域研究 | 新たな華語情報環境のもとでの中国研究が示唆する次世代型地域研究 | 鈴木　賢 | 北海道大学・大学院法学研究科・教授 | H26.10～H30.3 | B |
| | エネルギー政策・言説の日独地域比較 | タック川崎　レスリー | 筑波大学・人文社会系・准教授 | H26.10～H30.3 | B |
| | 地域社会の災害レジリエンス強化に向けて―SNSとクラウドGISを用いた共時空間型地域研究 | 古澤　拓郎 | 京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授 | H26.10～H29.9 | A |
| 学術研究の変容とミスコンダクトについての人文学・社会科学的研究 | 責任ある研究・イノベーションのための組織と社会 | 吉澤　剛 | 大阪大学・大学院医学系研究科・准教授 | H26.10～H29.9 | A |
| 行動・認知・神経科学の方法を用いた、人文学・社会科学の新たな展開 | 生きる力の認知神経科学的分析とその教育応用研究の創成 | 杉浦　元亮 | 東北大学・加齢医学研究所・准教授 | H26.10～H29.9 | B |
| | 高齢者の生活行動データベースの構築および可視化による振り返り学習の実践 | 溝上　智惠子 | 筑波大学・図書館情報メディア系・教授 | H26.10～H30.3 | A |
| | 歴史科学諸分野の連携・総合による文化進化学の構築 | 井原　泰雄 | 東京大学・大学院理学系研究科・講師 | H26.10～H29.9 | B |
| | 社会心理学・神経科学・内分泌学の連携による文化差の遺伝的基盤の解明 | 石井　敬子 | 神戸大学・大学院人文学研究科・准教授 | H26.10～R3.3 | S |

# 各プログラムの研究テーマ一覧②

## Ⅰ　領域開拓プログラム　（第２期　H29～R2）　12件

### 研究テーマ設定型（0件）

### 研究テーマ公募型（12件）

| 課題 | 研究テーマ名 | 研究代表者氏名 | 所属機関・所属部局・職名<br>※採択時の情報 | 研究期間 | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|
| 「認知科学的転回」とアイデンティティの変容 | アイデンティティの内的多元性：哲学と経験科学の協同による実証研究の展開 | 竹澤　正哲 | 北海道大学・文学研究科・准教授 | H29.10～R3.3 | A |
| | 脳機能亢進の神経心理学によって推進する「共生」人文社会科学の開拓 | 小山　慎一 | 筑波大学・芸術系・教授 | H29.10～R3.3 | A |
| | 個々人の心的アイデンティティの多元的認知行動解析による理解 | 一川　誠 | 千葉大学・大学院人文科学研究院・教授 | H29.10～R3.3 | B |
| | 予測的符号化の原理による心性の創発と共有−認知科学・人文学・情報学の統合的研究− | 大平　英樹 | 名古屋大学・情報学研究科・教授 | H29.10～R5.3 | A※ |
| | 創発的知性としての「群衆の智慧」：集団意思決定による社会と個人の変容 | 齋木　潤 | 京都大学・人間・環境学研究科・教授 | H29.10～R2.9 | A |
| 「責任ある研究とイノベーション」の概念と「社会にとっての科学」の理論的実践的深化 | 生命・環境技術の社会実装に関する先端融合研究—21世紀型参加のビジョンと試行— | 松田　毅 | 神戸大学・人文学研究科・教授 | H29.10～R3.3 | B |
| | RRIの新展開のための理論的・実践的研究ー教育・評価・政治性に注目して | 標葉　隆馬 | 成城大学・文芸学部・専任講師 | H29.10～R2.9 | A |
| テクノロジーの革新と日本的美学および感性 | 観客とともに共創する芸術—光・音・身体の共振の社会学的・芸術学的・工学的研究 | 山崎　敬一 | 埼玉大学・人文社会科学研究科・教授 | H29.10～R3.3 | B |
| | 響き合う空間、励起される美意識 | 古川　聖 | 東京藝術大学・美術学部・教授 | H29.10～R2.9 | B |
| | 日本の伝統芸能における技法やコンテンツを先端ロボット産業に活かすUXデザイン研究 | 中川　志信 | 大阪芸術大学・芸術学部・教授 | H29.10～R3.3 | A |
| 嗜好品の文化的・社会的意味 | 失われた飲食文化の復活と現代に問いかけるその意義 | 伊藤　信博 | 名古屋大学・人文学研究科・助教 | H29.10～R3.3 | B |
| | 「嗜好品」とは何か？—嗜好品に関する学際的研究と文献データベース構築を通して | 松原　豊彦 | 立命館大学・経済学部・教授 | H29.10～R3.3 | B |

※　令和2年度に研究期間の延長を申請し、領域開拓部会の評価の結果、令和4年度まで延長が認められたため、最終評価は令和4年度に実施予定。

# 各プログラムの研究テーマ一覧③

## Ⅰ　領域開拓プログラム　（第３期　R2～R4）　11件

### 研究テーマ設定型（0件）

### 研究テーマ公募型（11件）

| 課題 | 研究テーマ名 | 研究代表者氏名 | 所属機関・所属部局・職名<br>※採択時の情報 | 研究期間 | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|
| 人文学・社会科学における方法論の検討および新たな創出の試み | 分野間比較を通した質的研究アプローチの再検討 | 井頭　昌彦 | 一橋大学・大学院社会学研究科・教授 | R2.10～R5.3 | ― |
| | 対話型アーカイブズによる新たな「島嶼の知」の創出に基づく島嶼地域科学の体系化 | 波多野　想 | 琉球大学・島嶼地域科学研究所・教授 | R2.10～R5.3 | ― |
| 人工知能など高度化する情報技術社会におけるルールと公共性の問題 | AIが介護保険行政を代行する際のルールに関する研究－地域経営とSCの視座から－ | 川島　典子 | 福知山公立大学・地域経営学部・教授 | R2.10～R5.3 | ― |
| グローバル化社会における格差と機会の平等についての領域横断的研究 | リテラシー格差の発生要因とその意思決定への影響、格差縮小方策に関する実証研究 | 小川　一仁 | 関西大学・社会学部・教授 | R2.10～R5.3 | ― |
| 科学技術と「人間」との関係性に関する研究 | 創造する天然知能としての「わたし」の理論と実践 | 郡司　幸夫 | 早稲田大学・基幹理工学部・教授 | R2.10～R5.3 | ― |
| パンデミックなど世界規模の災禍への人間社会の対応と課題 | 新型コロナウイルス問題対応の法制度論的（法政策論的）考察 | 吉田　邦彦 | 北海道大学・大学院法学研究科・教授 | R2.10～R5.3 | ― |
| | 新型コロナウイルスに関する主観的報告コーパスの自然言語処理による現象学的分析 | トム・フロース | 沖縄科学技術大学院大学・身体性認知科学ユニット・准教授 | R2.10～R5.3 | ― |
| | パンデミックの歴史研究に基づいたポストパンデミックの社会・環境理論の構築 | 藤原　辰史 | 京都大学・人文科学研究所・准教授 | R2.10～R5.3 | ― |
| | 災害対策検討に資する網羅的企業取引ネットワークにおける大規模シミュレーション | 井上　寛康 | 兵庫県立大学・大学院シミュレーション学研究科・准教授 | R2.10～R5.3 | ― |
| | グローバルな視座から見た原子力災害後のコミュニケーションに関する総合的研究 | 関谷　直也 | 東京大学・大学院情報学環総合防災情報研究センター・准教授 | R2.10～R5.3 | ― |
| | エビデンスに基づく感染症拡大の経済学・疫学連携研究と政策分析 | 西山　慶彦 | 京都大学・経済研究所・教授 | R2.10～R5.3 | ― |

# 各プログラムの研究テーマ一覧④

## Ⅱ　実社会対応プログラム

（第１期　H25～27）　13件

### 課題設定型研究テーマ（2件）

| 課題 | 研究テーマ名 | 研究代表者氏名 | 所属機関・所属部局・職名<br>※採択時の情報 | 研究期間 | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|
| 人口動態を踏まえた日本の国と社会のかたち | 少子化対策に関わる政策の検証と実践的課題の提言 | 阿部　正浩 | 中央大学・経済学部・教授 | H25.10～H28.3 | A |
| 非常時における適切な対応を可能とする社会システムの在り方 | 非常時における適切な対応を可能とする社会システムの在り方に関する社会科学的研究 | 齊藤　誠 | 一橋大学・大学院経済学研究科・教授 | H25.10～H28.3 | A |

### 公募型研究テーマ（11件）

| 課題 | 研究テーマ名 | 研究代表者氏名 | 所属機関・所属部局・職名<br>※採択時の情報 | 研究期間 | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|
| 観光の人文学・社会科学的深化による地域力の創出 | 国境観光：地域を創るボーダースタディーズ | 岩下　明裕 | 北海道大学・ｽﾗﾌﾞ・ﾕｰﾗｼｱ研究ｾﾝﾀｰ・教授 | H25.10～H28.3 | A |
| | 民間所蔵文化財の資源化・流通による学術観光創成の実証的研究 | 安藤　美奈 | 東京藝術大学・美術学部・講師 | H25.10～H28.3 | B |
| | 地域に現存する学術資料を活用した地域学術観光創出に関する研究 | 堀井　洋 | 合同会社AMANE・調査研究ユニット・代表社員 | H25.10～H28.3 | A |
| 規制改革の評価分析 | 雇用確保に向けられた労働法及び倒産法における規制改革の現状と課題 | 池田　悠 | 北海道大学・大学院法学研究科・准教授 | H25.10～H27.9 | B |
| | 規制改革圧力下における混合診療拡大の方向性 | 加藤　智章 | 北海道大学・大学院法学研究科・教授 | H25.10～H27.9 | A |
| | 短期賃貸借保護制度撤廃による不動産競売市場・規制改革の効果分析 | 福井　秀夫 | 政策研究大学院大学・政策研究科・教授 | H25.10～H31.3 | A |
| 教育政策の社会的・経済的効果に関する評価 | 初等中等教育での教育投資や学力が若年期の学習意欲・就業・所得に与える影響の実証研究 | 赤林　英夫 | 慶應義塾大学・経済学部・教授 | H25.10～H28.3 | A |
| 共生社会実現をめざす地域社会及び専門家の内発的活動を強化するための学術的実践 | 認知行動療法のICT化とサポートネットワーク構築によるバリアフリーなメンタルケア | 下山　晴彦 | 東京大学・大学院教育学研究科・教授 | H25.10～H28.3 | A |
| | 病院を中心とする街づくり　まちなか集積医療の提言 | 伊藤　由希子 | 東京学芸大学・教育学部・准教授 | H25.10～H28.3 | A |
| | ケアと支え合いの文化を地域コミュニティの内部から育てる臨床哲学の試み | 浜渦　辰二 | 大阪大学・大学院文学研究科・教授 | H25.10～H28.3 | B |
| | 高齢者施設等の地域への社会的・福祉的防災復興資源としての役割に関する研究 | 大塚　毅彦 | 明石工業高等専門学校・建築学科・教授 | H25.10～H28.3 | B |

# 各プログラムの研究テーマ一覧⑤

## Ⅱ　実社会対応プログラム　（第２期　H27～30）　11件

### 課題設定型研究テーマ（2件）

| 課題 | 研究テーマ名 | 研究代表者氏名 | 所属機関・所属部局・職名<br>※採択時の情報 | 研究期間 | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|
| 制度、文化、公共心と経済社会の相互連関 | 制度が文化を通じて人々の社会規範や公共心に与える影響：実験室実験とフィールド実験 | 佐々木　勝 | 大阪大学・大学院経済学研究科・教授 | H27.10～H31.3 | B |
| 疫病の文化形態とその現代的意義の分析　―社会システム構築の歴史的考察を踏まえて― | 医学史の現代的意義―感染症対策の歴史化と医学史研究の社会との対話の構築 | 鈴木　晃仁 | 慶應義塾大学・経済学部・教授 | H27.10～H30.9 | A |

### 公募型研究テーマ（9件）

| 課題 | 研究テーマ名 | 研究代表者氏名 | 所属機関・所属部局・職名<br>※採択時の情報 | 研究期間 | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|
| 制度、文化、公共心と経済社会の相互連関 | 私益と共益が錯綜する公共的意思決定のプロセスデザインに関する研究 | 大沼　進 | 北海道大学・大学院文学研究科・准教授 | H27.10～H31.3 | A |
| | 効果的・持続的な災害伝承を目的にした拠点構築手法のモデル化と実践的研究 | 佐藤　翔輔 | 東北大学・災害科学国際研究所・助教 | H27.10～H30.9 | A |
| | 子ども・若者の貧困対策諸施策の効果と社会的影響に関する評価研究 | 阿部　彩 | 首都大学東京・大学院人文科学研究科・教授 | H27.10～H30.9 | A |
| | 日本の昆布文化と道内生産地の経済社会の相互連関に関する研究 | 齋藤　貴之 | 星城大学・ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部・講師 | H27.10～H30.12 | B |
| | 共感形成の社会基盤とソーシャル・ビジネスを活用した新産業創造の研究 | 八木　匡 | 同志社大学・経済学部・教授 | H27.10～H30.9 | B |
| 人口減少地域社会における安心しうるケア・システムの構築と生活基盤の整備 | 地域特性が生きる医療介護総合計画の評価基準の確立―小児在宅医療を起点にして | 加藤　智章 | 北海道大学・大学院法学研究科・教授 | H27.10～H31.3 | B |
| | 地域社会における生活基盤の持続可能性指標の開発 | 大西　立顕 | 東京大学・大学院情報理工学系研究科・准教授 | H27.10～H30.9 | A |
| | データベース解析に基づくケア・システムの地域特性の把握と福祉まちづくりデザイン | 佐無田　光 | 金沢大学・経済学経営学系・教授 | H27.10～H31.3 | A |
| | 多世代協働による生活支援モデルの開発と社会実装に向けた研究 | 藤原　佳典 | 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター・東京都健康長寿医療センター研究所研究部長 | H27.10～H30.9 | A |

# 各プログラムの研究テーマ一覧⑥

## Ⅱ　実社会対応プログラム　（第３期　H30～R3）　８件

### 研究テーマ設定型（0件）

### 研究テーマ公募型（8件）

| 課題 | 研究テーマ名 | 研究代表者氏名 | 所属機関・所属部局・職名<br>※採択時の情報 | 研究期間 | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|
| 世代間衡平性・持続可能性・社会安全性等の倫理的観点を考慮した政策設計のための実践的研究 | 親族内承継か第三者によるM＆Aか？：沖縄におけるファミリー企業の実地調査 | 打田　委千弘 | 愛知大学・経済学部・教授 | H30.10～R3.9 | S |
| | 工学・脳科学をエビデンスとした社会的基盤概念と価値の創生 | 松浦　和也 | 東洋大学・文学部・准教授 | H30.10～R4.3 | C |
| LGBTおよび性的少数者をめぐる社会的ダイバーシティの実現に関する研究 | 生殖補助医療・社会的養護によるLGBTの家族形成支援システムの構築 | 二宮　周平 | 立命館大学・法学部・教授 | H30.10～R4.3 | B |
| 人口減少社会における多様な文化の共生をめざすコミュニティの再構築 | 尊厳ある縮退によるコミュニティの再生と創生 | 渥美　公秀 | 大阪大学・人間科学研究科・教授 | H30.10～R4.3 | B |
| | 人口減少社会における包摂と継承―「最先端」秋田からの提言 | 熊谷　嘉隆 | 国際教養大学・国際教養学部・教授 | H30.10～R4.3 | B |
| | 移住者を惹きつける中山間地域の地域資本を解き明かす：山梨県での学際的地域協働研究 | 高橋　康夫 | 公益財団法人地球環境戦略研究機関・自然資源・生態系サービス領域・研究員 | H30.10～R4.3 | A |
| | 実践と政策のダイナミクスによる多文化共生：大阪型在日外国人参加モデルと政策提言 | 高谷　幸 | 東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授 | H30.10～R4.3 | B |
| 忘却に関する学際的研究と社会対応基盤の構築 | 忘却するWeb情報提示機構の実装と認知的・経済的価値の評価 | 森田　純哉 | 静岡大学・情報学部・准教授 | H30.10～R4.3 | A |

# 各プログラムの研究テーマ一覧⑦

## Ⅲ　グローバル展開プログラム　（第１期　H25～28）　５件

### 課題設定型研究テーマ（2件）

| 課題 | 研究テーマ名 | 研究代表者氏名 | 所属機関・所属部局・職名<br>※採択時の情報 | 研究期間 | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|
| グローバル人文学 | アジア歴史空間情報システムによるグローバル・ヒストリーの新研究 | 水島　司 | 東京大学・大学院人文社会系研究科・教授 | H26.2～H29.3 | A |
| 日本の国際広報と国際発信に関する実証研究 | 政治と外交の対外情報発信に関する国際共同研究：日本と他国の比較、実験と内容分析によるアプローチ | 多湖　淳 | 神戸大学・大学院法学研究科・准教授 | H26.2～H29.3 | A |

### 公募型研究テーマ（3件）

| 課題 | 研究テーマ名 | 研究代表者氏名 | 所属機関・所属部局・職名<br>※採択時の情報 | 研究期間 | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|
| 科学についてのコミュニケーション及び意思決定の国際的な整合的発展 | エネルギー，化学物質，水管理政策における市民参加型の意思決定手法に関する国際比較 | 大久保　規子 | 大阪大学・大学院法学研究科・教授 | H26.2～H29.3 | A |
| 家族制度と男女共同参画に関する国際比較 | 国際比較可能データによる男女共同参画と家族の役割変化の多元的動学分析 | 樋口　美雄 | 慶應義塾大学・商学部・教授 | H26.2～H29.3 | B |
| 日本企業のコーポレート・ガバナンスに関するグローバルな発信 | 日本の企業統治の比較実証分析：所有構造・戦略選択・パフォーマンス | 宮島　英昭 | 早稲田大学・商学学術院・教授<br>早稲田大学・高等研究所・所長 | H26.2～H29.3 | B |

# 各プログラムの研究テーマ一覧⑧

## Ⅲ　グローバル展開プログラム　（第２期　H28～R1）　７件

### 研究テーマ設定型（1件）

| 課題 | 研究テーマ名 | 研究代表者氏名 | 所属機関・所属部局・職名<br>※採択時の情報 | 研究期間 | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|
| グローバル社会における排他主義とデモクラシーに関する総合的研究 | グローバル社会におけるデモクラシーと国民史・集合的記憶の機能に関する学際的研究 | 橋本　伸也 | 関西学院大学・文学部・教授 | H29.2～R1.12 | B |

### 研究テーマ公募型（6件）

| 課題 | 研究テーマ名 | 研究代表者氏名 | 所属機関・所属部局・職名<br>※採択時の情報 | 研究期間 | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|
| グローバル社会における排他主義とデモクラシーに関する総合的研究 | 多文化共生デモクラシーの社会的基盤設計ー制度・構造・規範の国際比較共同研究 | 大賀　哲 | 九州大学・法学研究院・准教授 | H29.2～R2.3 | B |
| | 「難民危機」の時代におけるレイシズムの変容とその克服策に関する国際比較研究 | 飯田　文雄 | 神戸大学・法学研究科・教授 | H29.2～R2.3 | A |
| グローバル化に対応した人文学・社会科学教育の国際比較 | 人文・社会科学教育の内容と方法のイノベーションに関する国際比較研究 | 佐藤　学 | 学習院大学・文学部・教授 | H29.2～R2.3 | B |
| | 国民国家型の大型歴史教育をグローバル化時代に適応させる方法に関する国際比較 | 堤　一昭 | 大阪大学・文学研究科・教授 | H29.2～R1.9 | B |
| グローバル人文学：日本文学・芸術・思想の普遍性の探求 | 絵ものがたりメディア文化遺産の普遍的価値の国際共同研究による探求と発信 | 阿部　泰郎 | 名古屋大学・文学研究科・教授 | H29.2～R1.9 | A |
| | 道元の思想圏：分析アジア哲学的アプローチ | 出口　康夫 | 京都大学・文学研究科・教授 | H29.2～R1.9 | B |

# 各プログラムの研究テーマ一覧⑨

## Ⅲ　グローバル展開プログラム　（第３期　R1～R3）　６件

### 研究テーマ設定型（0件）

### 研究テーマ公募型（6件）

| 課題 | 研究テーマ名 | 研究代表者氏名 | 所属機関・所属部局・職名<br>※採択時の情報 | 研究期間 | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|
| グローバル化する世界における社会的分断の研究 | グローバル化のなかの都市分断と社会的紐帯に関する近隣効果の国際比較研究 | 川野　英二 | 大阪市立大学・大学院文学研究科・<br>教授 | R1.9～R4.3 | ー |
| 情報化やAIなどの技術革新および環境問題などに直面する新たな人文学・社会科学の展開 | 技術革新および環境化学物質は不妊を増加させたか | 小西　祥子 | 東京大学・大学院医学系研究科（医学部）・准教授 | R1.9～R4.3 | ー |
| | AI時代の国際私法 | 佐藤　健 | 国立情報学研究所・情報学プリンシプル研究系・教授 | R1.9～R4.3 | ー |
| 人類の文化遺産継承のための国際共同研究 | 逸失の危機にある文化遺産情報の保全・復元・活用に関する日・欧・アジア国際共同事業 | 稲葉　穣 | 京都大学・人文科学研究所・教授 | R1.9～R4.3 | ー |
| | 新たな価値を創造する文化遺産活用の国際共同研究　ユーザー関与度深化、地域作りの視点 | 河島　伸子 | 同志社大学・経済学部・教授 | R1.9～R4.3 | ー |
| | 文化遺産保護の統合的ガバナンス方法論開発のための国際共同研究 | 河野　俊行 | 九州大学・法学研究院・教授 | R1.9～R4.3 | ー |